



取扱説明書

A large, stylized circular graphic that spans across the center of the page. It features concentric blue and white rings, with some segments having fine, radiating lines, giving it a sense of motion or a stylized wheel. The graphic is split by a vertical line, with the left half on a blue background and the right half on a white background.

Drag Star

**XVS1100
XVS1100A**

5PB-28199-J3

はじめに

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

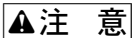
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。



安全にかかわる注意情報を示してあります。



取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。



取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要 点

正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間
- 保証書の発行（保証書裏面の記入・捺印）

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡ししてください。

※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

安全運転のために	2
あなた自身と同乗者のために	2
歩行者と他の車のために	7
環境・住民の方との調和のために ..	8
名称と操作	10
各部の名称	10
計器類の見かた	12
イモビライザーシステム	
<XVS1100A>	15
盗難警報器（オプション）	
<XVS1100A>	15
キーの取り扱い<XVS1100>	16
キーの取り扱い<XVS1100A>	16
メインスイッチ	17
ハンドルロック	18
ハンドルスイッチの使いかた	19
フューエルコック	21
チョークレバー	22
ヘルメットホルダー	22
シートの取り外しかた	
<XVS1100>	23
シートの取り付けかた	
<XVS1100>	23
シートの取り外しかた	
<XVS1100A>	24
シートの取り付けかた	
<XVS1100A>	24

サイドカバー	25
サービスツール	26
書類入れ	26
サスペンションセッティング	26
燃料補給	29
ガソリンの給油	29
運転操作	31
エンジンのかけかた	31
走りかた	33
ギヤチェンジのしかた	33
シフトダウンのしかた	34
ならし運転のしかた	35
ブレーキの使いかた	35
エンジンの非常停止	36
日常点検	37
日常点検の実施	37
日常点検箇所／点検内容	37
日常点検の方法	38
定期点検整備	43
定期点検整備の実施	43
定期点検整備の方法	43
アンダーブラケットの	
取り付け状態の点検	44
クラッチレバーの遊びの点検	44
エアクリーナーエレメントの	
点検	45
車体各部の給油脂状態の点検	46

バッテリーの点検	46
ブレーキパッドの点検	46
やさしい整備	47
やさしい整備	47
ブレーキの遊びの調整	48
ブレーキ液の補給	48
ブレーキランプスイッチ	49
クラッチレバーの調整	50
エンジンオイルの補給	50
ファイナルギヤオイルの	
交換時期	51
エアクリーナーエレメントの	
清掃	52
バックミラー	52
タイヤ	53
バッテリー	54
ヒューズ	55
お車の手入れ	57
洗 車	57
保管のしかた	58
アフターケア用品について	59
サービスデータ	60
製品仕様	60
サービスデータ	61
車両情報	巻末

JAU03768

安全運転のために	2
名称と操作	10
燃料補給	29
運転操作	31
日常点検	37
定期点検整備	43
やさしい整備	47
お車の手入れ	57
サービスデータ	60
車両情報	巻末

安全運転のために

JAU01896

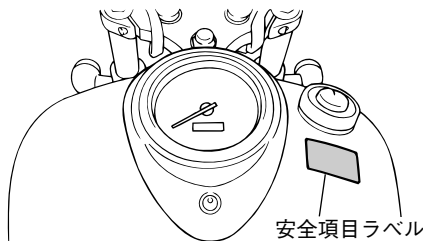
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

■安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU04655

1.あなた自身と同乗者のために

◆安全項目ラベルについて



運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。

⚠ 警告

- ・取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ・ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- ・マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ・ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- ・違法改造はやめましょう。
- ・定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

3XC-2118K-10

◆安全運転は正しい服装から



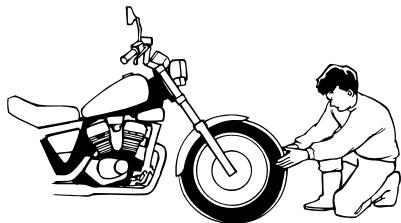
- ヘルメットは必ず着用してください。
ヘルメットはSまたはSG、JISマークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっかり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は、明るく目立つ色で動きやすく、体の露出が少ないものを着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
ズボンのすそや袖口の広い服は、運転操作のじゃまになり、思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。
- 靴はかかとが低く、足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。

運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

◆日常点検、定期点検整備を必ず行う



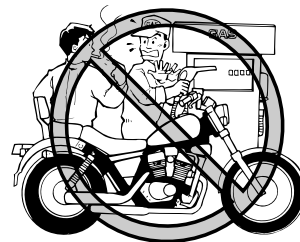
事故や故障を防ぐため、法令で定められた1日1回ご使用前に行う日常点検と、法令で定められた6か月、12か月ごとに行う定期点検は必ず実施してください。

◆車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

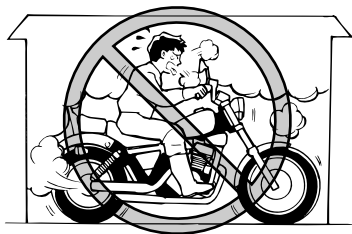
- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面に燃料、オイル、冷却水などが漏れた跡があるとき。

◆給油時は火気厳禁



ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。

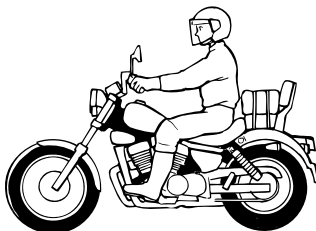
◆風通しの悪い場所でエンジンを
始動しない



排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい屋外で行ってください。

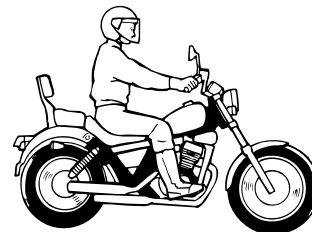
◆荷物はしっかり固定する



荷物を積むと、積まないときに比べて操縦安定性が変わります。

荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。

◆両手はハンドル、
両足はフットレスト



- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。

◆乗車定員は2名

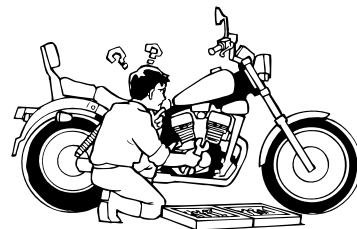
ただし、免許取得後1年未満の運転者は、法令により2人乗りはできません。

◆急激なハンドル操作や片手運転はしない



急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。

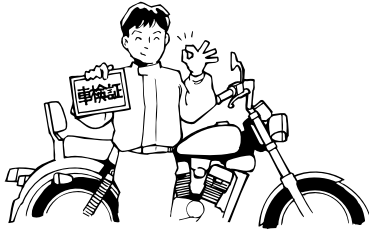
◆自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない



エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

2. 歩行者と他の車のために

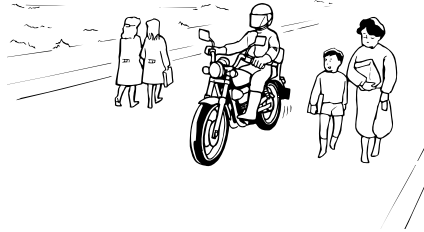
◆継続検査（車検）は2年ごとに



小型自動車(251cc以上)は国で定める2年ごとの継続検査を受けなければ使用できません。

期間満了前に必ず受けてください。

◆他の人への思いやり



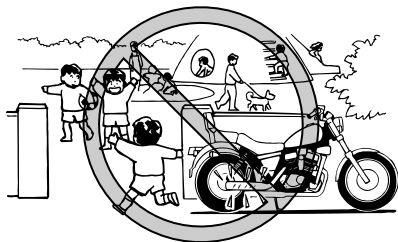
- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。
歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。

◆駐車

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、Pロック、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。
やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

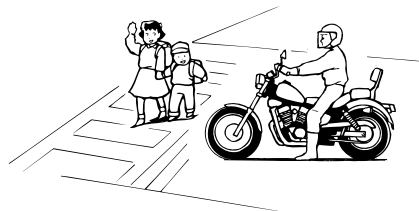
3.環境・住民の方との調和のために

◆住民の方への思いやり

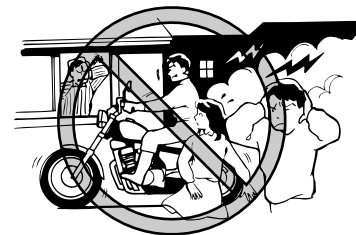


⚠ 警 告

- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。
また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。

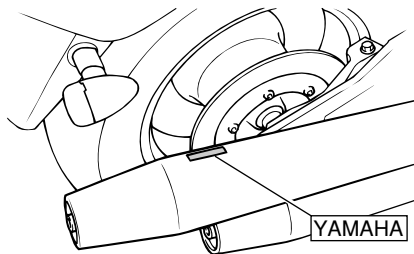


自分の都合だけを考えて、沿道の方に不快な騒音などの迷惑をかけないでください。



特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。

◆違法改造はしない



違法改造は法律により禁止されています。
改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。

また、改造すると車の保証が受けられません。

なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。

◆環境への配慮

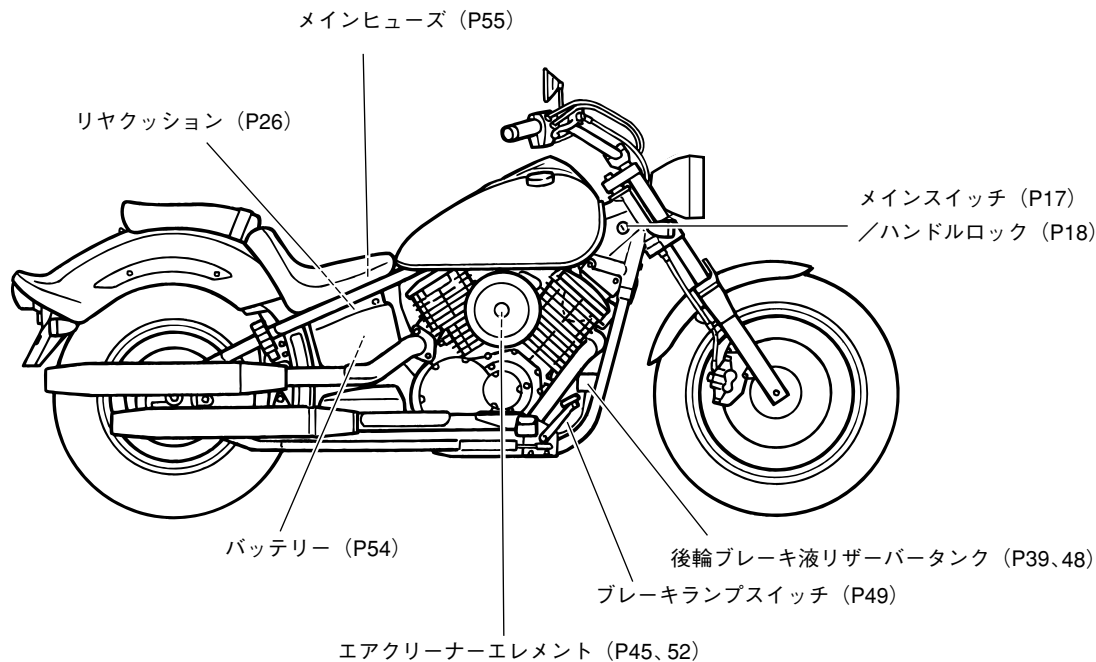
廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

名称と操作

JAU01918

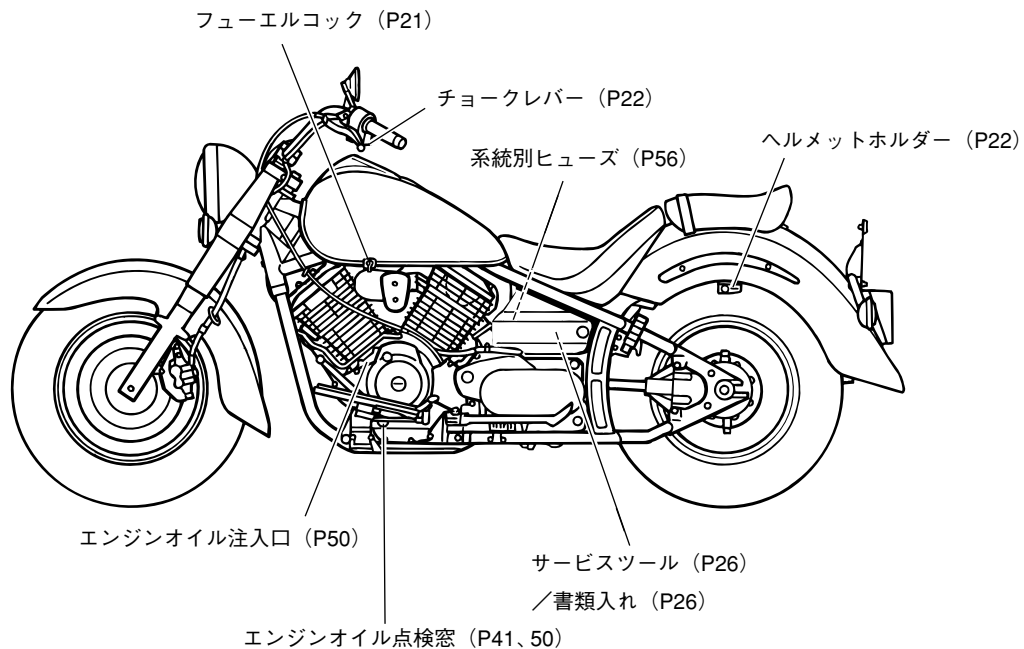
各部の名称

<イラストはXVS1100>



各部の名称を示してあります。() 内に参照ページがあるものは、そのページに詳しい説明があります。
(……部は外からは見えない部分です。)

<イラストはXVS1100A>



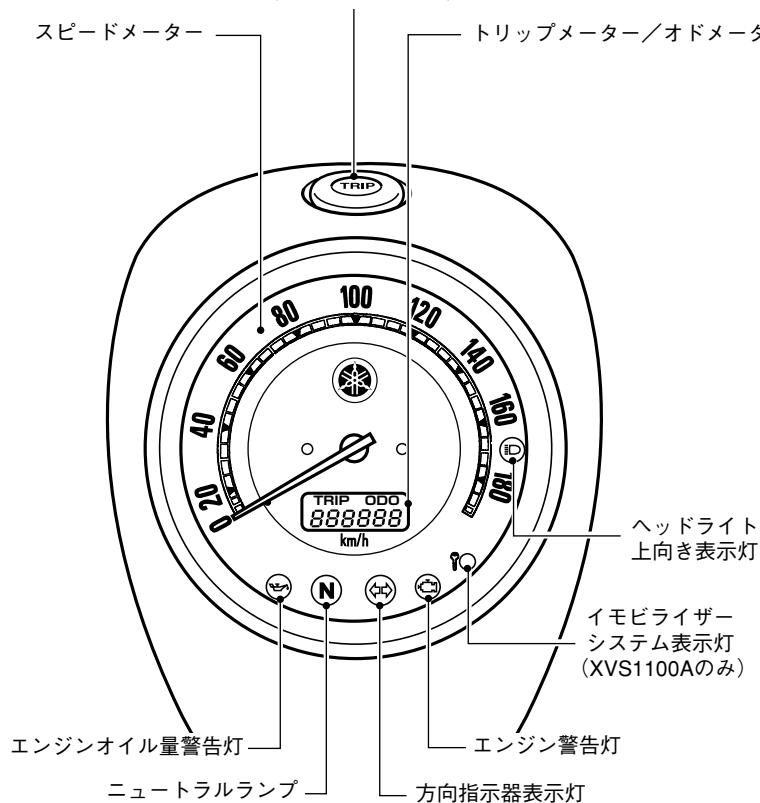
計器類の見かた

<イラストはXVS1100A>

トリップメータースイッチ

スピードメーター

トリップメーター／オドメーター

ヘッドライト
上向き表示灯イモビライザー
システム表示灯
(XVS1100Aのみ)

エンジンオイル量警告灯

エンジン警告灯

ニュートラルランプ

方向指示器表示灯

JAU01922

◆スピードメーター

車の速度を指針で示します。

JAU04336

◆トリップメーター／オドメーター

メインスイッチをONにすると表示します。
メインスイッチをOFFにしても設定は記憶されています。

トリップメーター (TRIP)

トリップメータースイッチを1秒以上押し
てメーターを“0.0”にすると、次にリ
セットするまでの走行距離を積算します。
トリップメータースイッチを1秒未満押し
と、オドメーターに切り替わります。

オドメーター (ODO)

走行した総距離をkmの単位で示します。
オイル交換や定期点検整備の目安にもなり
ます。

トリップメータースイッチを1秒未満押し
と、トリップメーターに切り替わります。

JAU01941

◆ニュートラルランプ (N)

メインスイッチがONで、ギヤチェンジがニュートラルのときに点灯します。

JAU01944

◆方向指示器表示灯 (↵↶)

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU01945

◆ヘッドライト上向き表示灯 (≡D)

ヘッドライトを上向き点灯すると、表示灯も点灯します。

JAU09080

◆エンジンオイル量警告灯 (🛢️)

エンジンオイル量が規定以下になると点灯します。

要 点

- 警告灯の球切れや回路点検のため、メインスイッチをONにすると表示灯が約1秒間点灯したあと消灯します。点灯しないときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- 警告灯はオイル量が規定内であっても、車体の姿勢や加減速などで瞬間的に点灯することがありますが正常です。

▲注 意

- 何度も点滅したり、点灯したままになるときは、エンジンオイル量を点検してください。
不足しているときは、早めに補給してください。
オイル量が正常なときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- 警告灯が点灯したまま走行すると、故障の原因となります。

JAU03458

◆エンジン警告灯 ()

エンジンに異常が発生すると、点灯または点滅します。点灯（点滅）したときは、早めにヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

▲注意

警告灯の球切れや回路の点検のため、メインスイッチをONにすると約1.4秒間点灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU09068

◆イモビライザーシステム表示灯 ()

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。

メインスイッチをOFFにすると、イモビライザーシステムが機能し、メインスイッチOFF後、約30秒経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。その後、約24時間経過すると表示灯は消えませんが、イモビライザーシステムは機能しています。

要 点

表示灯の球切れや回路点検のため、メインスイッチをONにすると表示灯が約1秒間点灯したあと消灯します。点灯しないときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

自己診断機能

この車には、イモビライザーシステムの異常を知らせる自己診断機能を装備しています。メインスイッチがONの状態であれば、エンジンの始動、停止にかかわらず、検出した異常内容のコードをイモビライザーシステム表示灯の点灯または点滅で表示します。

▲注意

自己診断機能が働いたときは、ヤマハ販売店にて点検・整備を受けてください。

イモビライザーシステム表示灯が長く5回点滅した後、短く2回点滅するパターンの異常コード表示を繰り返したときは、キーのIDの認識が妨げられた可能性があります。

3本のキー全てで、エンジンが始動できるかを確認してください。エンジンの始動ができないキーがあった場合には、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

要 点

他のイモビライザーキーをメインスイッチに近づけたり、複数のイモビライザーキーを同じキーリングにつけたりしないでください。（この車のキーも含まれます。）IDの認識を妨げ、エンジンの始動ができないことがあります。

JAU09070*

イモビライザーシステム <XVS1100A>

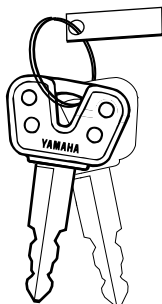
この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有のIDを持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録されたIDのキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

JAU09071

盗難警報器（オプション） <XVS1100A>

この車には、オプションで盗難警報器を装着することができます。
装着については、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

キーの取り扱い<XVS1100>



- キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないように、充分に注意してください。
- キーは2本付属しています。1本は予備として大切に保管してください。
- 1本のキーを紛失または破損したときは、販売店またはキーショップなどで新しい予備キーを作っておいてください。
- キーを2本とも紛失または破損したときは、販売店にご相談ください。

キーの取り扱い<XVS1100A>



マスコット部が赤いメインキーが1本とマスコット部が黒いサブキーが2本あります。

メインキーはサブキーのIDを登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。

▲注 意

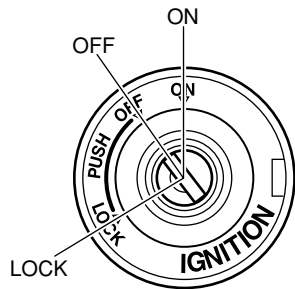
キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキーのIDを登録することができなくなります。また、3本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。
- キーを水に浸けないでください。
- キーを高温になる場所に置かないでください。
- キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。
- キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。
- キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。
- キーを分解しないでください。
- 複数のイモビライザーキー（この車のキーも含みます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。IDの認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。

メインスイッチ

メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入/切」、ハンドルロックを行います。

メインスイッチはフレームヘッドパイプの後方、右側にあります。



JAU02023

ON

- エンジンの始動ができます。
- テールランプ、メーター灯が点灯します。
- エンジンを始動させると、ヘッドライトが点灯します。
- キーは抜けません。

要 点

- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。
- エンストしてもヘッドライトは点灯しています。
- この車はフューエルポンプを装備しています。メインスイッチをONにしたとき、またはエンジン始動中にフューエルポンプの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

JAU02036

OFF

- エンジンを止めます。
エンジンは始動できません。
- キーの抜き差しができます。

JAU02038

LOCK (ハンドルロック)

- ハンドルをロックします。
- キーの抜き差しができます。

JAU02042

⚠ 警 告

走行中にメインスイッチをOFFやLOCKの位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。

メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

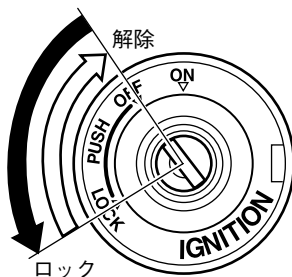
JAU02045

⚠ 注 意

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。
- メインスイッチをONのままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。注意してください。

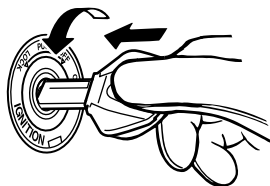
ハンドルロック

ハンドルロックは駐車時などの盗難予防用です。



ロックのしかた

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFFの位置でキーを押し込み、そのままLOCKまで回します。



要 点

ロックしにくいときは、ハンドルを軽く左右に動かしながらキーを回します。

3. ハンドルを軽く左右に動かして、ロックを確認します。
4. キーを抜きます。

警告

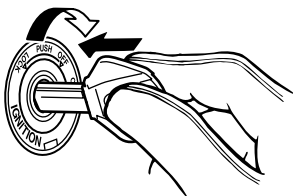
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。
やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。
また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。

注意

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

解除のしかた

キーをLOCKの位置で押し込み、そのままOFFまで回します。

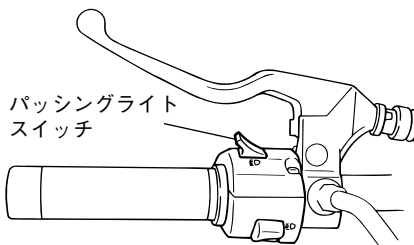


警告

走行前にハンドルを左右に切り、切れ角が左右均等であるかを確認します。

JAU02070

ハンドルスイッチの使いかた



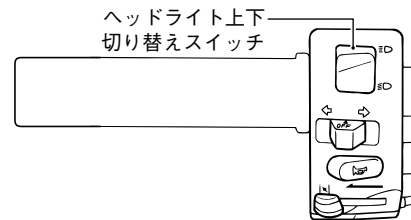
JAU04111

◆パッシングライトスイッチ (≡D)

ヘッドライトの上向きを点灯させるスイッチです。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要 点

ヘッドライト上下切り替えスイッチが≡Dのときは、使用できません。



JAU03916

◆ヘッドライト上下切り替えスイッチ (≡D ≡D)

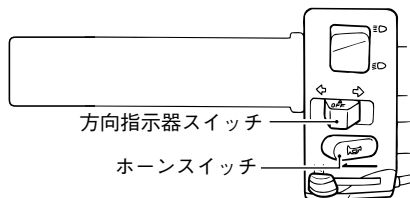
ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

≡D (上向き) : 遠くを照らします。

≡D (下向き) : 近くを照らします。

要 点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向き≡Dにしてください。



JAU03550

◆方向指示器スイッチ (↵↶)

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

↵：右側の方向指示灯が点滅します。

↶：左側の方向指示灯が点滅します。

▲警告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他の方の迷惑になります。

▲注意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。これ以外のものを使用すると、正常に作動しません。

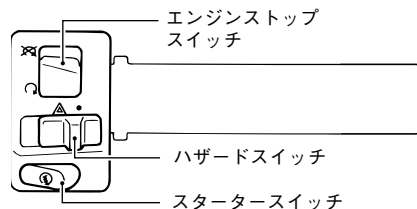
JAU02083

◆ホーンスイッチ (📢)

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要 点

必要なときにのみ使用してください。



JAU03993

◆エンジンストップスイッチ (🛑)

非常時に、エンジンをすぐに停止させるスイッチです。通常はQにしておきます。

▲警告

非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

▲注意

- 非常時にエンジnstoppスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチをOFFにしてください。ONのままですと、バッテリーあがりの原因となります。
- 走行中に、エンジnstoppスイッチを○→⊗→○にしないでください。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。また、排出ガス浄化装置の故障の原因となります。

要 点

⊗にすると、エンジンは始動できません。

JAU02073

◆ハザードスイッチ (△)

故障などの非常時に、他車に知らせるために使用します。

メインスイッチをONにして、ハザードスイッチを△にすると、すべての方向指示灯が点滅します。

▲注意

長時間ハザードスイッチを△のままにすると、バッテリーあがりの原因になります。

JAU02092

◆スタータースイッチ (⊗)

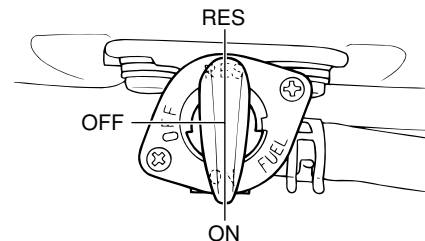
スターターモーターを回転させ、エンジンを始動させるスイッチです。

▲注意

スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。

JAU02109

フューエルコック



この車はフューエルポンプを使用しています。エンジンが停止すると自動的にガソリンの流れが止まります。

ON

始動および走行時のレバー位置です。

RES

予備燃料（予備容量約4.5L）のレバー位置です。

ONで走行中にガソリンがなくなったら、レバーをこの位置にします。予備燃料が使用できますが早めに給油してください。給油を終えたらレバーをONに戻してください。

OFF

エンジンの点検などでフューエルパイプをフューエルタンクから外すときのレバー位置です。

要 点

- メインスイッチをONにしたとき、またはエンジン始動中にフューエルポンプの作動音が聞こえるときがありますが異常ではありません。
- RESでガソリンがなくなり給油したときは、メインスイッチをONにし、エンジンストップスイッチの $\odot \rightleftharpoons \otimes$ を5秒以上の間隔で数回繰り返します。キャブレターに早くガソリンが流れ、給油後の始動が容易になります。

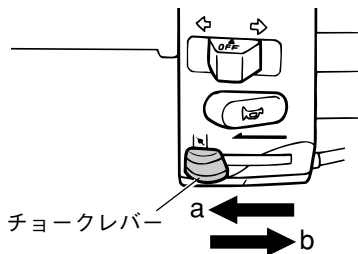
JAU03512

チョークレバー

エンジンが冷えているときは、チョークレバーを a 方向に回すと始動が容易になります。

エンジンが始動したら、20～30秒後にチョークレバーを半分ぐらい b 方向に戻します。

エンジンが充分暖まったら、チョークレバーを元の b 方向に戻します。



▲注 意

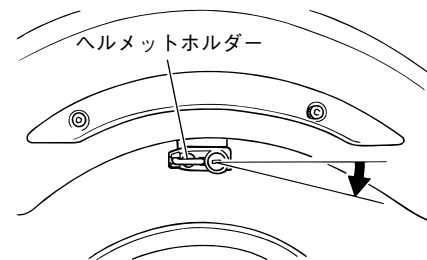
走行するときは、必ずチョークレバーを戻してください。

JAU04072

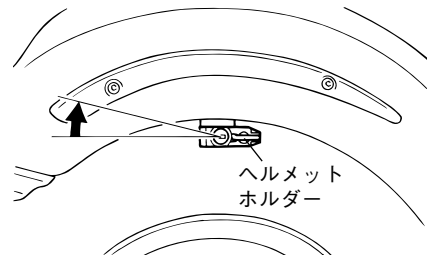
ヘルメットホルダー

キーでロックを解除し、ヘルメットのあごひもの金具部分を掛けてロックします。

<XVS1100>



<XVS1100A>



警告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、ヘルメットが損傷し保護機能が低下することがあります。また、車に損傷を与えることがあります。

要点

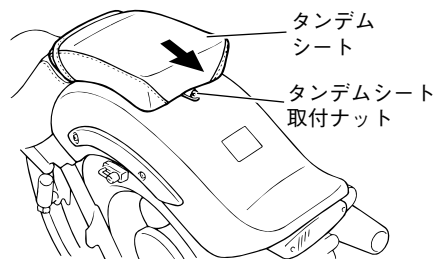
ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

JAU03687

シートの取り外しかた<XVS1100>

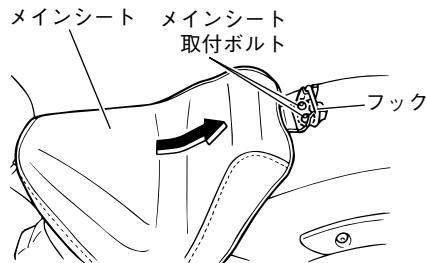
<タンデムシート>

1. タンデムシート取付ナットを外します。
2. タンデムシートを後方にずらして外します。



<メインシート>

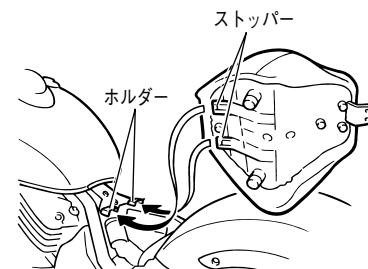
1. メインシート取付ボルトとフックを外します。
2. メインシートを後方にずらして外します。



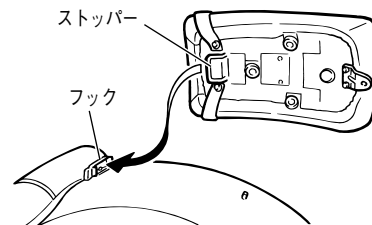
JAU03689

シートの取り付けかた<XVS1100>

1. メインシートのストッパーを車体のホルダーに入れます。



2. メインシートとフックを取付ボルトで締め付けます。
3. タンデムシートのストッパーをメインシート後方のフックに入れます。



4. 取付ナットを締め付けます。

要 点

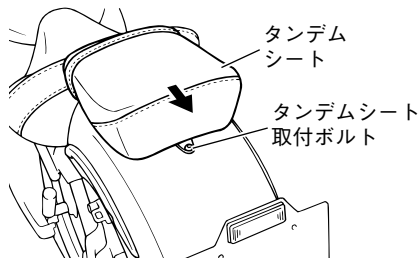
シートが正しく取り付けられているか確認してください。

JAU03688

シートの取り外しかた<XVS1100A>

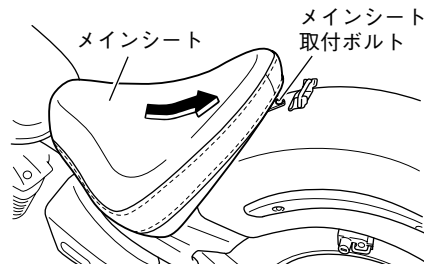
<タンデムシート>

1. タンデムシート取付ボルトを外します。
2. タンデムシートを後方にずらして外します。



<メインシート>

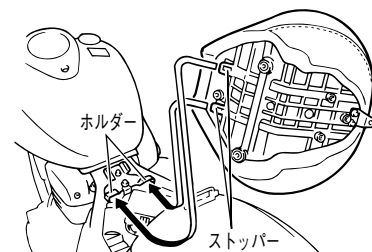
1. メインシート取付ボルトを外します。
2. メインシートを後方にずらして外します。



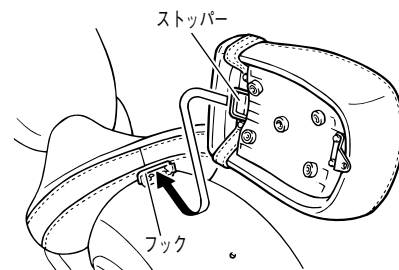
JAU03690

シートの取り付けかた<XVS1100A>

1. メインシートのストッパーを車体のホルダーに入れます。



2. 取付ボルトを締め付けます。
3. タンデムシートのストッパーをメインシート後方のフックに入れます。



4. 取付ボルトを締め付けます。

要 点

シートが正しく取り付けられているか確認してください。

JAU03695

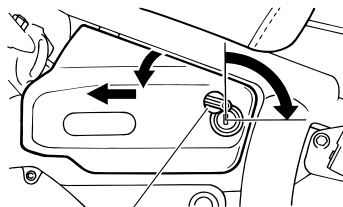
サイドカバー

JAU03696

◆左サイドカバー

取り外しかた

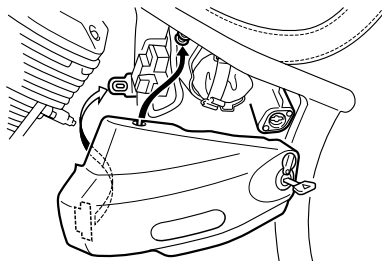
1. キーカバーを開けます。
2. キーを差し込み、時計方向に回してロックを解除します。
3. サイドカバーの上側を手前に引き、前方にずらして外します。



キーカバー

取り付けかた

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

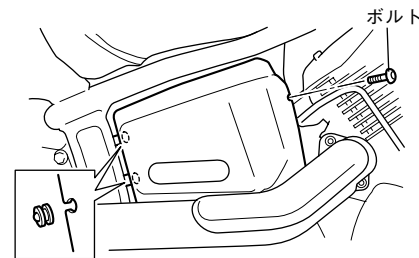


JAU03697

◆右サイドカバー

取り外しかた

1. ボルトを外します。
2. サイドカバーを手前に引いて外します。

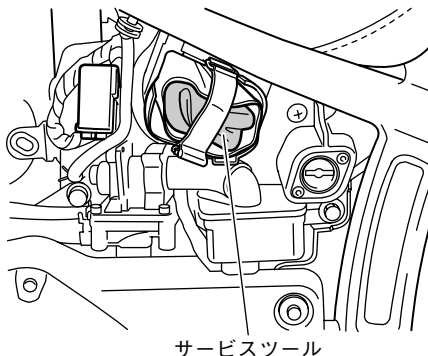


取り付けかた

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

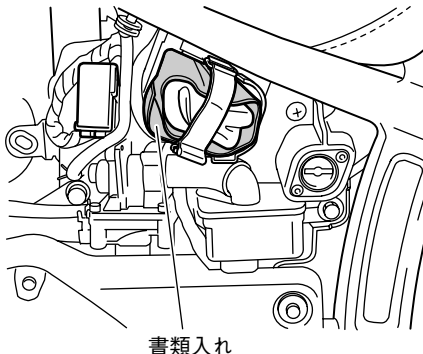
サービスツール

左のサイドカバーを外すと、バンドで固定してあります。



書類入れ

車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れ（収納用ポーチ）に保管します。サービスツールの外側に巻いてゴムバンドで固定してください。



サスペンションセッティング

各自の好みや路面、走行状況に応じて調整ができます。

◆リヤクッション

リヤクッションのセッティングには、スプリングの取付荷重の調整があります。

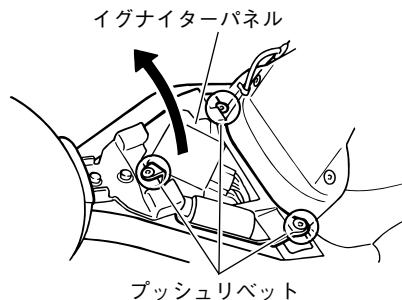
⚠ 警告

クッションユニットには高圧チッ素ガスを封入してありますので、下記のことを厳守してください。

- 分解しない。
- 火気の中に投げ込まない。
- 廃棄するには、ガス抜きが必要です。
必ずお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

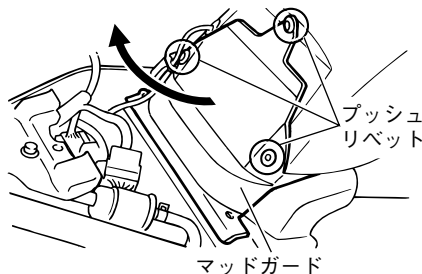
スプリングの取付荷重の調整

1. タンデムシート、メインシートを取り外します。(シートの取り外しかたは23、24ページ参照)
2. プッシュリベットを取り外し、イグナイターパネルを右側に外します。(プッシュリベットの取り外しかたは28ページ参照)

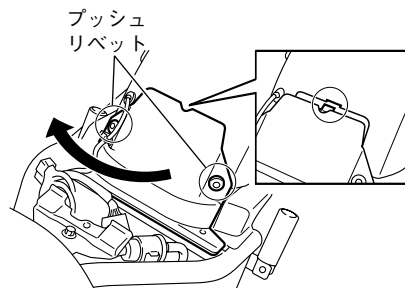


3. プッシュリベットを取り外し、マッドガードを右側に外します。

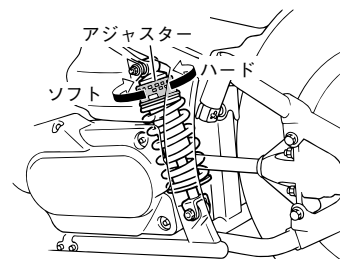
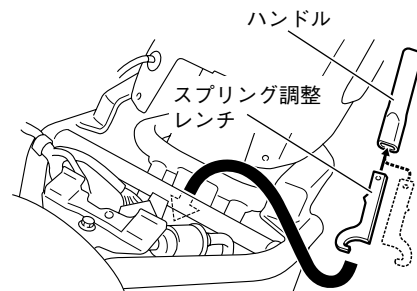
<XVS1100>



<XVS1100A>



4. サービスツールのスプリング調整レンチとハンドルを使用してアジャスターを回し、スプリングの取付荷重を調整します。



<XVS1100>

1名標準値	3段
調整範囲	1段（ソフト）～7段（ハード）

<XVS1100A>

1名標準値	4段
調整範囲	1段（ソフト）～9段（ハード）

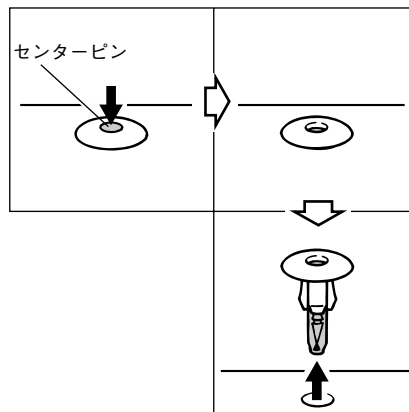
5. 調整が終わったら、逆の手順でマッドガード、イグナイターパネル、メインシート、タンデムシートを取り付けます。

JAU03692

プッシュリベットの取り外しかた、取り付けかた

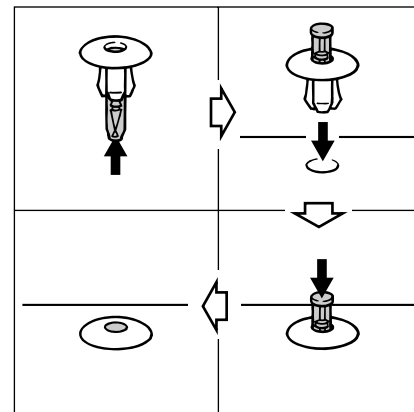
<取り外し>

センターピンを押し込み、プッシュリベットを取り外します。



<取り付け>

1. センターピンを押し出して、プッシュリベットを取り付けます。
2. センターピンを、プッシュリベットの面と同じ位置まで押し込みます。



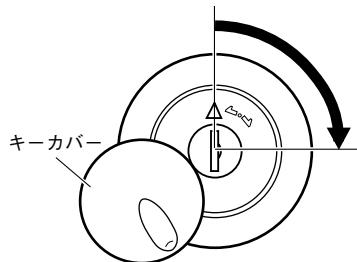
ガソリンの給油

▲警告

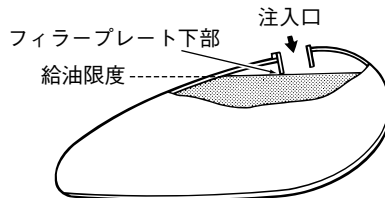
給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- 給油限度を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。

1. キーカバーを開けます。
2. キーを差し込み、時計方向に回してフューエルタンクキャップを開けます。



3. ガソリンを給油します。
ガソリンは、注入口にあるフィルタープレート下部より上に入れないでください。



▲注意

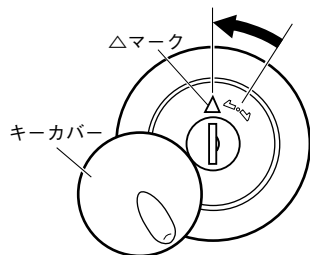
- 必ず指定燃料を使用してください。指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布きれなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

タンク容量：約17L（予備容量含）
指定燃料：無鉛レギュラーガソリン

-
4. 給油後は、手で押さえてフューエルタンクキャップを確実に閉めます。

要 点

フューエルタンクキャップの△マークを前方に向けてください。



5. キーを反時計方向に回して抜き、キーカバーを閉めます。

要 点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを開めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜き取ることができません。

運転操作

JAU04175

エンジンのかけかた

エンジンをかける前に

1. フューエルコックをON（あるいはRES）にします。
2. メインスイッチをONにします。
3. エンジンストップスイッチが○か確認します。
4. ギヤチェンジをニュートラルにします。（ニュートラルランプが点灯します。）

警告

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい屋外で行ってください。

要 点

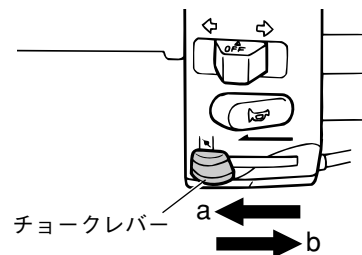
この車には、エンジン始動時の飛び出しを防止するクラッチスイッチと、発進時のサイドスタンドの格納忘れを防止するサイドスタンドスイッチが装備されています。

- サイドスタンド格納時は、ギヤチェンジがニュートラルのときを除き、クラッチレバーを握らなければエンジンは始動できません。
- サイドスタンド使用時は、ギヤチェンジをニュートラルにしないとエンジンは始動できません。

JAU02407

◆エンジンが冷えているとき

1. チョークレバーをいっぱいa方向に回します。



2. スロットルグリップを戻します。
3. スタータースイッチを押します。
4. エンジンが始動したら、20～30秒後にチョークレバーを半分ぐらいb方向に戻して暖機運転を行います。
5. エンジンが充分暖まり、エンジンの回転が安定したらチョークレバーを元のb方向に戻します。

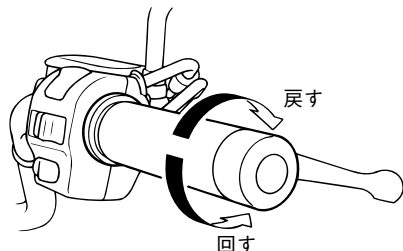
要 点

スタータースイッチで5秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10秒位休ませてから押しなおしてください。

JAU02414

◆エンジンが暖まっているとき

1. スロットルグリップを手前に少し回し、スタータースイッチを押します。



2. エンジンが始動したらスロットルグリップを戻します。

JAU02431

◆4～5回スタータースイッチを押しても始動しないとき

チョークレバーを元に戻し、スロットルグリップをいっばいに開けると始動しやすくなります。

▲注 意

エンジンが始動したら、スロットルグリップをすばやく戻してください。

JAU02432

◆エンジンの止めかた

メインスイッチをOFFにするとエンジンが止まります。

走りかた

1. サイドスタンドを確実に格納します。

⚠ 警 告

- サイドスタンドを出したまま走行すると、スタンドが地面に接触して運転操作に支障をきたすことがあり、たいへん危険です。

この車には発進時のサイドスタンドの格納忘れを防止するサイドスタンドスイッチが装備されています。発進時には必ず格納してください。

- 走行中にサイドスタンドを操作するとエンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。走行中はサイドスタンドを操作しないでください。

⚠ 注 意

サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、取付部に注油してください。

2. クラッチレバーを握り、シフトペダルでギヤチェンジを1速に入れ、静かに発進します。

要 点

サイドスタンドが確実に戻っていないときギヤチェンジをすると、サイドスタンドスイッチによりエンジンが停止します。

3. 車のスピードに応じてギヤチェンジをします。

⚠ 警 告

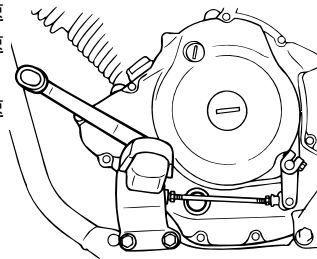
走行中に異常を感じたときは、すぐにヤマハ販売店にて点検・整備を受けてください。

ギヤチェンジのしかた

この車はリターン式の5段変速です。ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

<XVS1100>

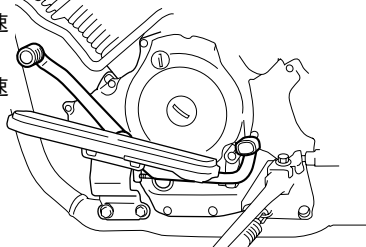
5 速
4 速
3 速
2 速
N
1 速



シフトダウンのしかた

<XVS1100A>

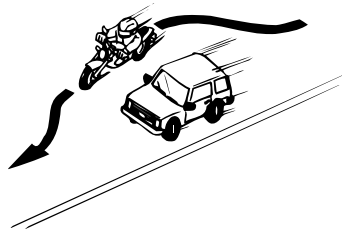
5 速
4 速
3 速
2 速
N
1 速



▲ 注 意

- シフトペダルは、足ごたえがあるまで確実に操作してください。
- クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。

追いつきや登坂時などにシフトダウン（低速ギヤにチェンジ）をすると、強力な加速力および登坂力が得られます。なお、高速で急激なシフトダウンを行うと、エンジンの回転が上がりすぎてエンジンやミッションに悪影響を与えます。



▲ 警 告

急激なシフトダウンは走行安定性をそこない、転倒などの原因となりますのでしないでください。

▲ 注 意

ギヤチェンジは必ずクラッチレバーをいっばいに握って行ってください。

クラッチレバーをいっばいに握らずに強引なギヤチェンジを行うと、エンジントラブルの原因となります。

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または1,000km走行まで）の点検までは、ならし運転をしてください。また、不要なからふかしや急加速、急減速はしないでください。

ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

ブレーキの使いかた

- ブレーキは前後輪同時にかけてください。
- 不要な急ブレーキはかけないでください。

急ブレーキをかけると、横すべりや転倒の原因となるときがあります。



警告

雨の日や水たまりを走行した後は、ブレーキのききが悪くなることがあります。

ききが悪いときは、安全な場所で前後の車に充分注意し、低速で走行しながらききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させ、ブレーキの湿りをかわかしてください。

要点

- 前輪または後輪ブレーキだけを使うと、横すべりや転倒の原因となるときがあります。必ず前後のブレーキを同時にかけてください。
- 雨の日や路面がぬれているところ、雪道や凍った道路では、滑りやすく制動距離も長くなります。速度を落として、余裕をもった運転をしてください。
- 長い下り坂などで連続してブレーキを使用すると、フェード現象の原因となります。このようなときは、エンジンブレーキと断続的なブレーキ操作で走行してください。

要 点

- フェード現象
ブレーキ部の温度が上昇すると、ブレーキのききが悪くなるか、まったくきかなくなる現象。
- エンジンブレーキ
走行中、スロットルグリップを戻したときにかかる制動力で、低速ギヤほどエンジンブレーキがききます。

エンジンの非常停止

何らかの原因でエンジンのコントロールができなくなると、きわめて危険な状態になります。

このような非常時にメインスイッチでエンジンを停止できないときは、エンジンストップスイッチを~~ON~~にしてください。ハンドルから手をはなすことなく、直ちにエンジンを停止することができます。

日常点検

JAU0277

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、道路運送車両法で、1日1回の日常点検を行うことが義務づけられています。必ず実施してください。

警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

JAU02486

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、次頁以降の日常点検の方法および別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降を参照してください。

点 検 箇 所	点 検 内 容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ※ 溝の深さが充分あること。
エンジン	※ エンジンオイルの量が適当であること。 ※ かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。 ※ 低速、加速の状態が適当であること。
灯火装置 および方 向指示灯	点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	当該箇所に異常がないこと。

(注)

※印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

警告

点検するときは下記の内容に注意してください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選んで行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。
ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。

日常点検の方法

◆ブレーキレバーの遊び／ ブレーキペダルの遊び、 およびブレーキのきき具合の点検

JAU02496

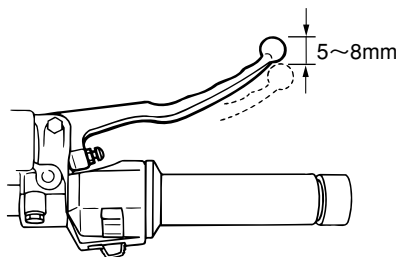
ブレーキの遊びの点検

<前輪ブレーキ>

ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバー先端部の遊びが規定の範囲にあるかを点検します。

遊びは5～8mm

(ブレーキレバーの遊びの調整は48ページ参照)



<後輪ブレーキ>

ブレーキペダルは無調整式です。ブレーキペダルを手で押し、手ごたえがあるかどうかを確認します。

⚠ 警 告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU02502

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

⚠ 警 告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

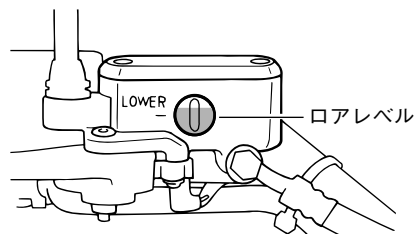
JAU04657

◆ブレーキ液量の点検

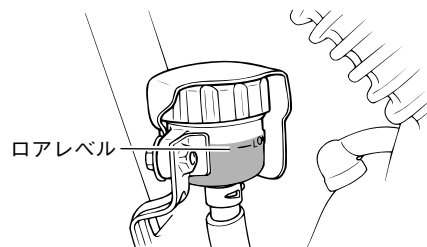
マスターシリンダーキャップ（リザーバータンクキャップ）上面を水平にして、ブレーキリザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

（ブレーキ液の補給は、48ページ参照）

<前輪ブレーキ>



<後輪ブレーキ>



⚠ 警告

ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキシステムの液漏れが考えられます。

ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

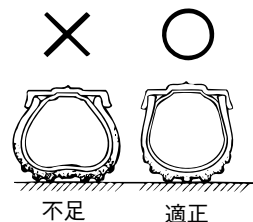
JAU03513

◆タイヤの空気圧

タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。

たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。

（タイヤ空気圧は53ページ参照）



JAU03553

◆タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないか、また、釘、石、その他の異物が刺さっていないかを点検します。

JAU02509

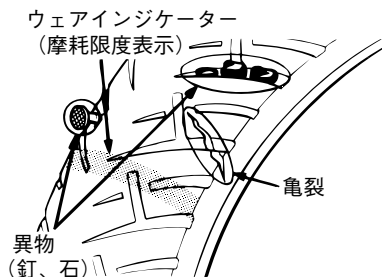
◆タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU03272

◆タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。タイヤに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



⚠警告

タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

要 点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が 0.8 mm になるとあらわれます。
- より安全な走行のため、溝の深さが前輪 1.6 mm、後輪 2.0 mm 以下になりましたらタイヤの交換をおすすめします。

JAU02535

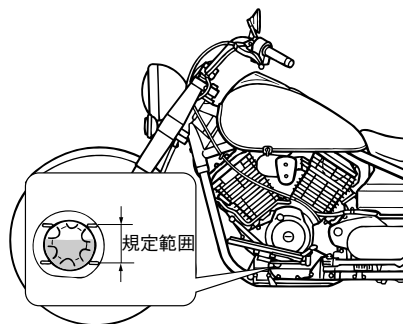
◆エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを始動し、2～3分間アイドル運転します。

要 点

走行直後でエンジンを十分に暖機してあれば、アイドル運転は不要です。

2. エンジンを止め、車を垂直にします。
3. 2～3分後、エンジンオイルが点検窓の規定範囲にあるかを点検します。



オイルが不足しているときは、50ページを参照して補給してください。

⚠ 警 告

エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。

ヤケドに注意してください。

JAU04599

◆エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。

エンジンから異音がないかを点検します。

JAU02541

◆低速、加速の状態の点検

暖機運転後に、アイドル運転がスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストップ（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU02546

◆灯火装置および方向指示灯の点検

1. エンジンを始動します。
2. ヘッドライト、テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（55ページを参照）し、異常がないときは電球を交換（60ページを参照）してください。

▲注意

電球は、正規の規格と同じものと交換してください。これ以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU02552

◆運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

定期点検整備

JAU03279

定期点検整備の実施

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、6 か月点検と12 か月点検の2種類があります。

▲警告

- 定期点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

JAU02555

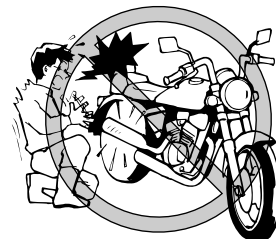
定期点検整備の方法

定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。

実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

要 点

- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。



▲警告

点検するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

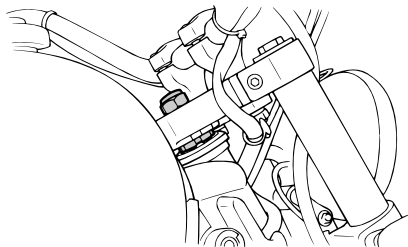
- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい屋外で行ってください。

- 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

JAU02557

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングシステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

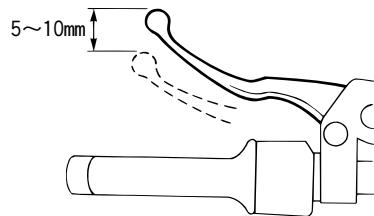
JAU02559

クラッチレバーの遊びの点検

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

遊びは5～10mm

（クラッチレバーの遊びの調整は50ページ参照）



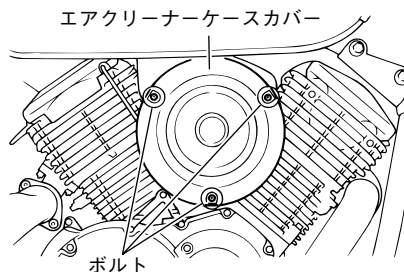
エアクリーナーエレメントの点検

エレメントを取り出し、汚れによる詰まりなどを点検します。
ほこりなどが著しく多い場所を走行したときは、定期点検期間より早めに点検・清掃を行ってください。

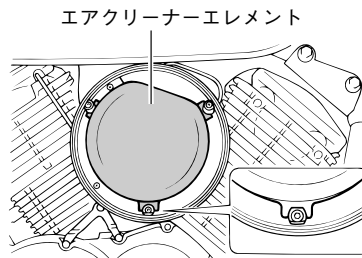
JAU02616

◆エアクリーナーエレメントの 取り外し

1. エアクリーナーケースカバー取付ボルトを外します。



2. エアクリーナーエレメントを取り外します。



JAU02630

◆エアクリーナーエレメントの 取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。
(エレメントの清掃方法は、52ページ参照)

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であることを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

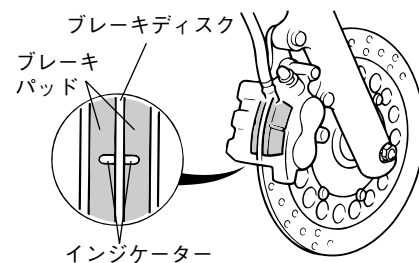
バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

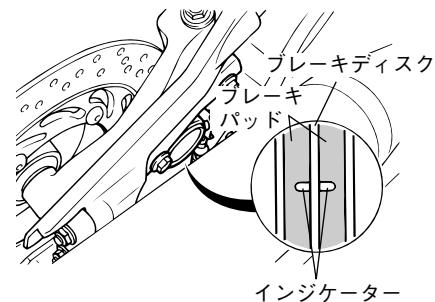
ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドのインジケーター溝の深さで摩耗の状態を点検します。
インジケーター溝がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドを交換してください。

<前輪ブレーキ>



<後輪ブレーキ>



やさしい整備

JAU03281

やさしい整備

点検をして車に異常が認められたときには、調整、清掃、交換などの整備が必要です。ここでは、通常行われることが多い簡単な整備方法を説明しています。

警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせて範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。

点検・整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検・整備は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。
ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。
風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい屋外で行ってください。
- 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。

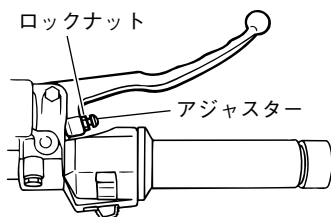
要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。）

ブレーキの遊びの調整

<前輪ブレーキ>

ブレーキレバー先端部の遊びが5～8mmになるように、ロックナットをゆるめてアジャスターで調整します。



▲ 注意

調整後、ロックナットを確実に締め付けます。

▲ 警告

ブレーキ調整後は、必ずブレーキランプの点灯と、ブレーキの引きずりがないかを確認してください。

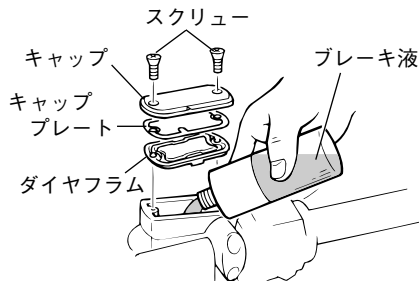
<後輪ブレーキ>

後輪ブレーキは無調整式です。

ブレーキ液の補給

<前輪ブレーキ>

1. リザーバータンクまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを外し、キャップ、キャッププレート、ダイヤフラムを取り外します。
3. ロアレベル以上になるようにブレーキ液を補給します。
4. ダイヤフラムのかみ込みに注意して、スクリューでキャップを取り付けます。



<後輪ブレーキ>

1. リザーバータンクまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. ボルトを外し、ホルダー、キャップ、ダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. ロアレベル以上になるようにブレーキ液を補給します。
4. ダイヤフラムのかみ込みに注意してキャップを取り付け、ホルダーで固定します。



指定ブレーキ液：ヤマハ純正ブレーキフルード®
BF-4 (DOT-4)

警告

- ブレーキ液は、銘柄や性能が異なるものを混入しないでください。
銘柄や性能が異なるブレーキ液を混入すると、ブレーキのきき具合やブレーキ系統の部品に悪影響を与えるおそれがあります。
- ブレーキ液を補給するときは、リザーバータンク内にゴミや水が混入しないようにしてください。
- 液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。
液が早く減少するようでしたら、お買い上げのヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために 1 年毎の交換をおすすめします。

注意

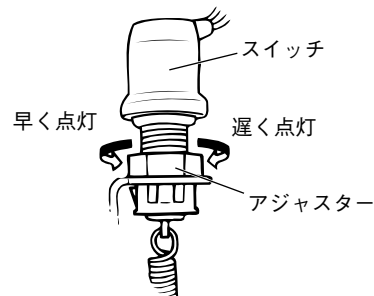
- ブレーキ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときに、あふれます。
- ブレーキ液が塗装面やプラスチック、ゴム類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。

JAU02684

ブレーキランプスイッチ

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。

リヤブレーキランプスイッチの調整は、スイッチを指で押さえ、アジャスターを回して行います。



注意

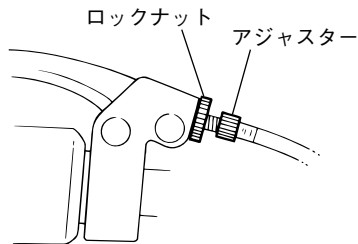
リヤブレーキランプスイッチを調整するときは、スイッチ本体を回さないでください。スイッチ本体を回すと、リード線を傷付けます。

フロントブレーキをかけたときもブレーキランプが点灯するか点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

クラッチレバーの調整

レバー先端部の遊びが5～10mmになるように、ロックナットをゆるめてアジャスターで調整します。



⚠ 警告

調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。

なお、車の飛び出しに注意してください。

⚠ 注意

- 調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。
- 1か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。ケーブルの寿命が伸びます。

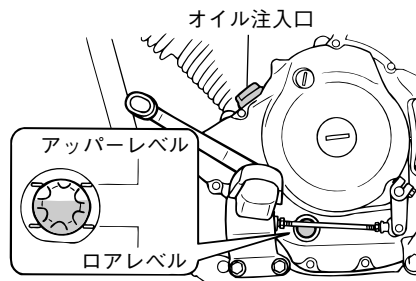
エンジンオイルの補給

- 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要 点

走行直後でエンジンを十分に暖機してあれば、アイドリング運転は不要です。

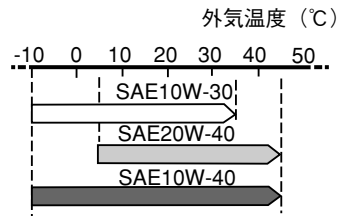
- エンジンを止めて車を垂直にし、2～3分後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。
- オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。



＜推奨エンジンオイル＞

	SAE	JASO
ヤマハ純正オイル エフェロプレミアム	10W-40	MA
ヤマハ純正オイル エフェロスポーツ	10W-40	MA
ヤマハ純正オイル エフェロベーシック	20W-40または 10W-30	MA

エンジンオイルの粘度は、外気温によって下表を参考にして使いわけてください。



◆エンジンオイルの交換時期

	エンジンオイル	オイルフィルター
初回	1 か月点検時 または 1,000km 時	1 か月点検時 または 1,000km 時
以降	3,000km 走行毎 または 1 年 毎	9,000km 走行毎

⚠ 警 告

- 走行後やエンジン暖機運転後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。
ヤケドに注意してください。
- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

⚠ 注 意

- 化学添加剤は一切加えないでください。
エンジンオイルはクラッチも潤滑しています。添加剤によりクラッチがずべる原因になります。
- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。
- オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。

ファイナルギヤオイルの交換時期

交換時期

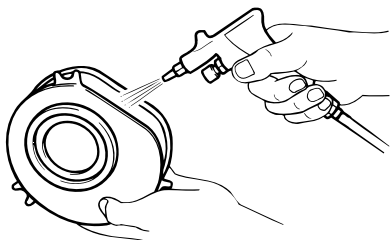
初回：1 か月点検時または 1,000km 走行時
2 回目以降：10,000km 走行毎

定期交換時オイル量：0.2L

推奨オイル：ヤマハドライブシャフトオイル

エアクリーナーエレメントの清掃

1. エアクリーナーエレメントを取り外します。
(45ページ参照)
2. エレメントを軽くたたいて、ゴミ、ほこりを落とし、エアをイラストのように吹きつけて清掃します。



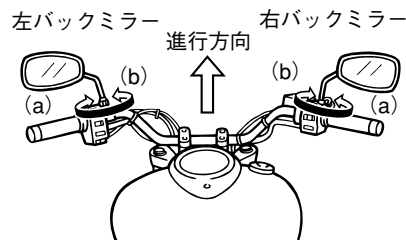
3. エレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。

▲注 意

- 破れなどのあるものは交換してください。
- エアクリーナーエレメントに水や油などをつけないでください。水や油などが付着して汚れているものは交換してください。
- エアクリーナーエレメントの取り付けが悪いと、ゴミやほこりがエンジン内部に入り、摩耗や出力低下を起こして耐久性に影響を与えます。確実に取り付けてください。
- 洗車時にエアクリーナーケースに水を入れないでください。内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。
- 著しくほこりなどの多い場所を走行したときは、定期点検期間より早めに点検、清掃を行ってください。

バックミラー

◆バックミラーの取り付け および取り外しかた



- 右バックミラーは左ネジです。
左：反時計回り (a) に回すと締まります。
右：時計回り (b) に回すとゆるみます。
- 左バックミラーは右ネジです。
右：時計回り (a) に回すと締まります。
左：反時計回り (b) に回すとゆるみます。

タイヤ

◆空気圧

空気圧はタイヤの冷えているときに測定してください。

<XVS1100>

		前 輪	後 輪
タイヤ 空気圧	1 名乗車	200kPa (2.00kgf/cm ²)	225kPa (2.25kgf/cm ²)
	2 名乗車	225kPa (2.25kgf/cm ²)	250kPa (2.50kgf/cm ²)
	高速走行	225kPa (2.25kgf/cm ²)	250kPa (2.50kgf/cm ²)
タイヤサイズ		110/90-18 61S 110/90-18M/C 61S	170/80-15M/C 77S
指定 タイヤ	ダンロップ	K555F	K555
	ブリヂストン	EXEDRA L309	EXEDRA G546 G

◆溝の深さ

安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6 mm、後輪 2.0 mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

▲ 警 告

異なった種類のタイヤや指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の安全走行に悪影響がありますので使用しないでください。

<XVS1100A>

		前 輪	後 輪
タイヤ 空気圧	1 名乗車	225kPa (2.25kgf/cm ²)	225kPa (2.25kgf/cm ²)
	2 名乗車	225kPa (2.25kgf/cm ²)	250kPa (2.50kgf/cm ²)
	高速走行	225kPa (2.25kgf/cm ²)	250kPa (2.50kgf/cm ²)
タイヤサイズ		130/90-16M/C 67S	170/80-15M/C 77S
指定 タイヤ	ダンロップ	D404F	D404G

バッテリー

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

⚠ 警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときは、すぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

⚠ 注意

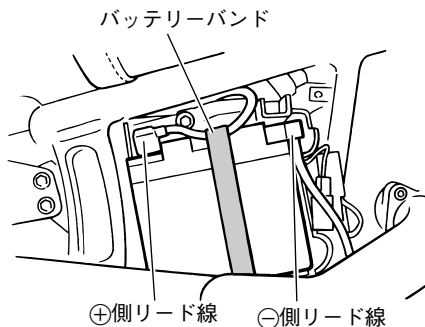
このバッテリーは密閉式の12Vです。

- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間ご使用にならないときは、6か月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

JAU02792

◆バッテリーの取り外し

1. 右のサイドカバーを取り外します。
2. バッテリーバンドを外します。
3. ⊖（マイナス）側リード線を外し、次に⊕（プラス）側リード線を外します。
4. バッテリーを取り外します。



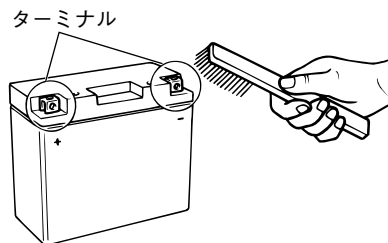
◆バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU02809

◆ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



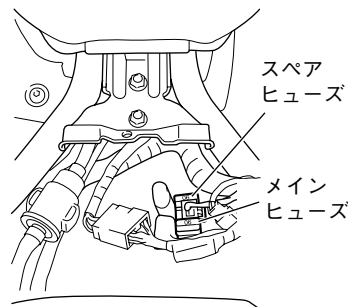
JAU03717

ヒューズ

タンデムシート、メインシート、イグナイターパネルを外すとメインヒューズがセットされています。

(シートの取り外し方は23、24ページ参照、イグナイターパネルの取り外しかたは27ページ参照)

メインヒューズ：30A



シグナル：10A



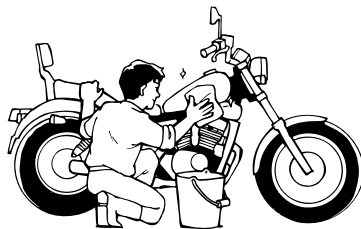
お車の手入れ

JAU02851

洗 車

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。



雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して十分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- スチーム洗車や水道ホースなどで、車に直接圧力かける洗車をしないでください。キズの原因になります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。

⚠ 警 告

- 洗車はエンジンが冷えているときにしてください。
- 洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。
- ブレーキディスクやパッドに、ワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。

保管のしかた

▲注意

- エアクリナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- コンパウンドの入ったワックスは、プラスチック部分を傷つけますので使用しないでください。

要 点

サイドカバー付近に水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはマフラーが冷えてからかけてください。

▲注意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- 保管する前にワックスがけをしてください。サビを防ぐ効果があります。
- 6か月ごとにバッテリーの充電をしてください。
- 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。

アフターケア用品について

大切な車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。ヤマハの車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。

A) 4サイクルオイルエフェロプレミアム

高回転・高負荷下でも油膜保持性能が高く、高性能エンジン搭載の中・大型車に最適な高品質オイルです。

B) 4サイクルオイルエフェロスポーツ

オイル消費を抑え、高速走行、ロングツーリングなどでも優れた性能を発揮するマルチタイプのオイルです。

C) 4サイクルオイルエフェロベーシック

一般走行、業務用に最適なコストパフォーマンスオイルです。

D) ブレーキフルード

高沸点、防錆性、安定性、ゴム劣化防止性に優れたブレーキフルードです。

E) ドライブシャフトオイル

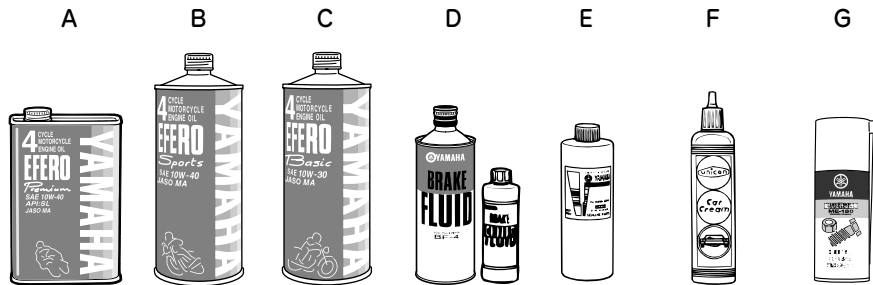
潤滑条件が過酷なドライブシャフトギヤを保護し、円滑な作動を長期間維持するオイルです。

F) ユニコンカークリーム（ワックス）

塗装面の汚れを簡単にとり、手間をかけずに美しい光沢が得られます。また、どんな塗装にも使用できる伸びのよいワックスです。

G) ME-180 防錆潤滑剤

防錆、潤滑、防湿、浸透性に優れた金属保護液です。



サービスデータ

製品仕様

[] 内はXVS1100Aドラッグスタークラシック

通 称 名		XVS1100ドラッグスター [XVS1100Aドラッグスタークラシック]		原 機	内 径 × 行 程		95.0×75.0mm		減 速 比	第1次減速歯数・比		78/47		1.659			
		車 名 ・ 型 式			ヤマハ・BC-VP13J		圧 縮 比			8.3 : 1		1速		40/17		2.352	
寸 法	全	全 長	2405 [2460] mm		動 機	エアクリーナー形式		乾式不織布		速 比	2速		40/24		1.666		
		全 幅	895 [950] mm			ク ラ ッ チ 形 式		湿式多板			第2次減速 歯数・比	3速		36/28		1.285	
		全 高	1095mm			ミッション・チェンジ方式		常時噛合式前進5段				4速		32/31		1.032	
		軸 間 距 離	1640 [1645] mm			始 動 方 式		セルスターター				5速		29/34		0.852	
		最 低 地 上 高	145 [135] mm			点 火 方 式		トランジスタ				ミドルギヤ1		44/47		0.936	
重 量	車 両	車 両 重 量	275 [291] kg		車 体	フ レ ー ム 形 式		ダブルクレードル		灯 ・ 計 器	ミドルギヤ2		19/18		1.055		
		前 輪 分 布	129 [135] kg			キ ャ ス タ ー		33° 00'			リヤギヤ		32/11		2.909		
		後 輪 分 布	146 [156] kg			ト レ ー ル		136 [132] mm			ヘ ッ ド ラ イ ト				12V 60/55W (ハロゲン)		
		車 両 総 重 量	385 [401] kg			ハ ン ド ル 切 れ 角		左右各38° [35°]			ブレーキ/テールランプ				12V 21/5W		
		前 輪 分 布	148 [154] kg			フューエルタンク容量		17L / 予備容量約4.5L			方 向 指 示 灯				12V 15W×4 [12V 21W×4]		
		後 輪 分 布	237 [247] kg			ブレーキ形式 (前)		油圧ダブルディスクブレーキ			メ ー タ ー 灯				14V 1.4W×2		
		乗 車 定 員		2名		↑ (後)		油圧ディスクブレーキ			パイロット ラ ン プ						
性 能	定地燃費 (国土交通省届出値)	32km/L (60km/h)		懸 架 方 式 (前)		テレスコピック		エンジンオイル量警告		12V 1.7W							
		最 小 回 転 半 径	3200 [3400] mm		↑ (後)		スイングアーム		ニュートラル						12V 1.7W		
原 動 機	最 高 出 力	最 大 ト ル ク	82Nm(8.4kgf・m) / 2500 r/min		緩 衝 方 式 (前)		オイルダンパー/コイルスプリング		方向指示器表示						12V 1.7W		
		原 動 機 種 類	4サイクル、空冷、OHC		↑ (後)		ガスオイルダンパー/コイルスプリング		エ ン ジ ン 警 告						12V 1.7W		
		気 筒 数 ・ 配 列	V型 2気筒		タイヤサイズ (前)		110/90-18 61S (チューブ有り)		ヘッドライト上向き						12V 1.7W		
							110/90-18M/C 61S (チューブ有り)		[イモビライザー システム表示灯]						[LED]		
		総 排 気 量	1063cm ³ (cc)		↑ (後)		170/80-15M/C 77S (チューブ有り)										

定地燃費は定められた試験条件のもとでの値です。走行時の気象、道路、車両、整備などの諸条件によって異なります。

サービスデータ

エンジン オイル	交 換 時		3000 cm ³ (cc)	ホイールトラベル		前	140 mm	スパーク プ ラ グ	型 式	BPR 7ES		
	エレメント交換時		3100 cm ³ (cc)			後	113 mm			W22 EPR-U		
	オーバーホール時		3600 cm ³ (cc)	タイヤ 空 気 圧		1 名 乗 車	前		200 kPa (2.0 kgf/cm ²) 〔225kPa (2.25kgf/cm ²)〕	ギ ャ ッ プ	0.7～0.8 mm	
ファイナルギヤオイル		200 cm ³ (cc)	後				225 kPa (2.25 kgf/cm ²)					
クラッチレバーの遊び		5～10mm	2 名 乗 車			前	225 kPa (2.25 kgf/cm ²)					
ブレーキの遊び	前	5～8 mm				後	250 kPa (2.50 kgf/cm ²)					
	後	無調整	高 速 走 行			前	225 kPa (2.25 kgf/cm ²)					
フロント ブレーキ	パッドの厚さ					後	250 kPa (2.50 kgf/cm ²)					
パッドの摩耗限度		0.8 mm (インジケータ付)										
リヤ ブレーキ	パッドの厚さ		5.5 mm			バッテリー	型 式		GT14B-4			
	パッドの摩耗限度		0.5 mm (インジケータ付)				容 量		12V 12Ah			

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

XVS1100/1100A サービスマニュアル

部品番号

基本版：5EL-28197-J0

追補版：5PB-28197-J5（XVS1100）

5KS-28197-J5（XVS1100A）

5KS-28197-J6

（XVS1100/XVS1100A）

※ 追補版は、マイナーチェンジなどで機構に変更があったときに、その変更部分のみを説明したサービスマニュアルです。基本版とあわせてご使用ください。

メ モ

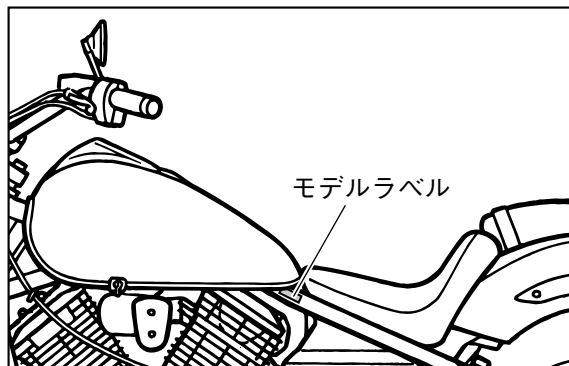
車両情報

◆モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、フューエルタンクとシートとの間の左フレームに貼り付けてあります。



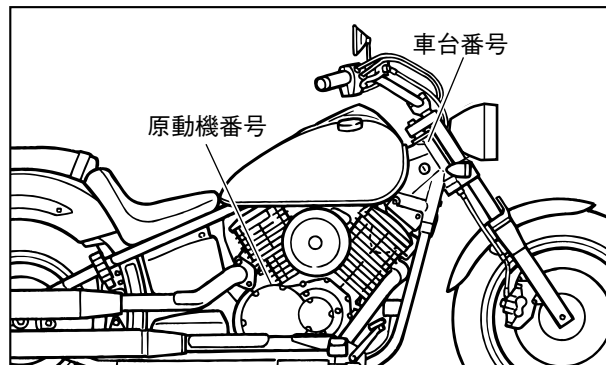
あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車 名 は	XVS1100ドラッグスター XVS1100Aドラッグスタークラシック
モデルラベル	☐ 製品仕様を示しています。 ☒ カラーリングを示しています。

◆車台番号、原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。



こんなときは、このページをご覧ください。

- エンジンが始動しないときは P31
- 走行中にエンジンオイル量警告灯が点灯したときは . . P41
- 走行中にガソリンがなくなったときは P29
- ランプ類が点灯しないときは（ヒューズ切れ） P55
- ランプ類が点灯しないときは（電球切れ） P60
- ブレーキのきき具合に異常があるときは P46

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの
巻末をご覧ください。

5PB-28199-J3



XVS1100/1100A取扱説明書
030100
再生紙を使用しています